

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛驒特別支援学校高山日赤分校

学校番号	119B
------	------

自己評価

学校教育目標	主体的に生きる力を育てる ～気づく、考える、動く～
--------	---------------------------

評価する領域・分野	地域との連携
現状及びアンケートの結果分析等	<p>アンケート結果では、全体的に「わからない」の評価が増えており、学校の教育活動が十分周知されていないことがうかがえる。コロナ禍のため、直接教育活動を参観する機会がほとんどなかったことの影響もあると思われる。地域と連携するためには、まず地域に学校のことを知ってもらうことが必要である。</p> <p>居住地校交流や学校間交流は、コロナ対応のため直接交流は行わず、オンラインでの交流となった。アンケート結果から、児童生徒の経験は広まっていないことがうかがえる。しかし、機会は保障できているので、児童生徒にとって有意義な交流の在り方を考えていく必要がある。また、地域と連携した防災や安全教育への取組を進めることも課題である。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>①当校の教育活動を、効果的に発信する。</p> <p>②オンラインでの交流の方法を工夫して取り組む。</p> <p>③防災や安全教育に関して、関係機関と連携して取り組む。</p>
重点目標を達成するための校内組織体制	<p>①各部、学習支援部、企画委員会</p> <p>②各部、学習支援部、企画委員会</p> <p>③保健安全部、生活進路支援部、管理職</p>
目標の達成に必要な具体的取組	<p>①作品展やHP、通信等における発信の内容を工夫する。</p> <p>②オンラインで有意義な活動となるよう、計画を十分に検討する。</p> <p>③関係機関や専門家の意見を聞きながら、命を守る訓練や、交通安全教室等を行う。</p>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>①作品展やHP、通信を通して、保護者や地域の方々に当校の教育活動について理解啓発ができたか。</p> <p>②オンラインで有意義な交流ができ、児童生徒の経験を広げることができたか。</p> <p>③関係機関や専門家の意見を取り入れ、防災や安全教育の取組を行うことができたか。</p>
取組状況・実践内容等	<p>①学校や児童生徒の様子を地域の方に知っていただく場として、作品展や写真展を開催した。今年度は、高等部の作業学習の様子をパネルで紹介したり、作業製品を展示したりした。また、学校だよりの発行回数を増やしたり、学校だよりや行事等の様子は、その都度HPに掲載したりし、当校の教育活動を知っていただけるよう努めた。地域の芸能祭にも学校紹介の動画で参加した。</p> <p>②居住地校交流、高山工業高校との交流、本校との交流はオンラインで行った。事前に接続テストを行い、カメラやマイクの位置を検討しておくことで、当日はスムーズに行うことができた。交流の内容も、クイズ形式にしたり、録画した映像を用いたりし、児童生徒が興味をもって参加できるよう工夫して取り組んだ。ICT機器の使い方については、職員研修を行い、どの職員も使い方に慣れてきて、活用方法を工夫している。</p> <p>③「命を守る訓練」の様子を消防士や防災士に見ていただき、訓練後、改善</p>

	<p>点等を指導いただき、次の訓練に活かすようにした。交通安全教室はコロナ対応のため、実際に警察官の方に来校していただくことはできなかったが、事前に職員が指導をいただき、それを踏まえて実施した。</p> <p>災害時の車いすの児童生徒の安全で迅速な避難については、学校運営協議会の中で話題にしたり、学校の様子を実際に見ていただいたりした中で、委員の方から、避難方法について意見をいただくことができた。</p> <p>P T A活動で、児童生徒、保護者、教員で学校周辺の道路を実際に歩き、車いすで歩くときに危険な箇所をチェックした。それをまとめたものを市役所、まちづくり協議会の方に伝えるとともに、今後どのように取り組んでいくとよいのかを、相談した。</p>
評価の視点	評価
①作品展やHP、通信等で、保護者や地域の方々に当校の教育活動について知っていただく機会が増えたか。	A (B) C D
②職員は、I C T機器の利活用を図ったり、オンラインでの交流が有意義にできるよう、活動内容を工夫したりできたか。	A (B) C D
③関係機関や専門家と連携して、訓練等を実施することができたか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
<p>○作品展や写真展では、温かい感想をいただき、地域の方々に当校の児童生徒や教育活動について知っていただくことができた。</p> <p>○I C T機器を活用し、オンラインでの交流を効果的に行うことができるようになってきた。</p> <p>○車いす使用の児童生徒の安全な避難方法について、専門家より助言をいただき、改善を進めることができた。</p> <p>▲2階からの安全で迅速な避難については、設備面も含めて、検討する必要がある。地域の方の力を借りることも考えながら検討をしていきたい。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や関係機関、地域に当校の教育について知っていただき、連携が図れるよう、継続して教育活動の発信方法や内容を工夫する。また、地域に出て地域と関わる活動を検討していく。 ・防災については、具体的に様々な状況を想定し、対応を考えておくことが必要である。防災に係る情報共有を専門家や地域、保護者と行いながら、防災計画を見直していく。

学校関係者評価 (令和4年2月21日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品展や写真展の開催により、地域の方への理解が進んだのではないかと思います。今後も積極的にいろいろな場で開催するようお願いしたい。 ・ホームページへはQRコードから入ってもらおうと思う。また、ホームページが硬いイメージを感じる。第一印象が決まるトップページを検討するとよい。動画を載せるとより興味をもってもらえるのではないかと。 ・まちづくり協議会のラインで、学校の様子を伝えてもらうことはできないか。 ・オンラインでの交流の方法や内容については、検討を重ね試行錯誤していくしかないと思う。 ・車椅子の避難方法は検討するとよい。 ・広域災害時を考えると、契約に基づく有償ボランティアや警備会社の派遣を求めるなど、より確実な手段を講じておくことが必要ではないかと思われる。 ・地域へは「具体的な提案をしながらのお願い」をしていかないと動いてもらいにくい。 ・防災については、普段から地域と関係をもち、協力体制を構築していく必要性を感じた。
